略歴・業績抄一覧

野本和幸（のもと　かずゆき）

一九三九年東京都生まれ

学歴

一九五八　埼玉県立浦和高校卒業

一九六二　国際基督教大学教養学部・人文科学科卒業

一九六四　京都大学大学院文学研究科・西洋近世哲学史修士課程修了

一九六七　京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学

一九八八　文学博士（「フレーゲの言語哲学」論文博二〇五号、京都大学）

職歴

専任教職歴

一九六七年茨城大学文理学部・教養部専任講師、教養部助教授（一九七〇―）、同教授（一九八〇―八四）

一九八五―一九八七　北海道大学文学部哲学科西洋哲学（現代哲学）助教授配置換
一九八七―一九九一　同　教授
一九九一―二〇〇一　東京都立大学人文学部哲学科教授
二〇〇一―　東京都立大学名誉教授
二〇〇一―　創価大學文学部教授

在外研究歴

一九七七―七八　ＡＣＬＳ（全米学術協会）招聘研究員（ＵＣＬＡ哲学部研究員（academic adviser: Prof. David Kaplan））、
一九七九―一九八〇　Ａ・ｖ・フンボルト財団招聘研究員（西独ゲッティンゲン大学哲学部研究員（Betreuer: Prof. Dr. G. Patzig））、
一九九一―一九九二　フンボルト財団欧州研究員（コンスタンツ大学哲学部研究員（Betreuer: Prof. Dr. F. Kambartel）、オックスフォード大学哲学部研究員（academic adviser: Prof. M. Dummett））

非常勤講師歴

京都大学大学院文学研究科（一九八一―八三）、東京大学教養学部・理学系大学院（一九八三　科学史・科学哲学、同一九九二）東京大学大学院文学研究科（一九九四―五）、北海道大学大学院文学研究科（一九八二―八四）、東北大学大学院文学研究科（一九八七）、東京都立大学大学院人文科学研究科（一九八八）、筑波大学大学院（哲学思想系一九八八、二〇〇〇）、岡山大学大学院文学研究科（一九九三）、

名古屋大学大学院文学研究科（一九九六）、大阪市立大学大学院文学研究科（一九九八）、法政大学大学院文学研究科（一九九五―八）、御茶ノ水女子大学文教育学部（一九九五―七）、東洋大学大学院文学研究科（一九九五―二〇〇一）、神戸大学大学院国際文化研究科（一九九七）、専修大学大学院文学研究科（一九九九）等

著作

単著

1. 『フレーゲの言語哲学』（単著、勁草書房）一八八六．［学位論文］
2. 『現代の論理的意味論』（単著、岩波書店）一九八八．
3. 『意味と世界』（単著、法政大学出版局）一九九七．
4. 『フレーゲ入門』（単著、勁草書房）二〇〇三．
5. 『フレーゲ―論理・言語・数学の哲学』（仮）（勁草書房）近刊．

編著

1. 『言語哲学を学ぶひとのために』（共編著、第Ⅰ部序「思考と言語」、第Ⅱ部序「論理学の革新と意味論の成立」、第四章「志向性と信念帰属の意味論」）世界思想社、二〇〇二．
2. 『科学哲学―現代哲学の転回』（共編著、六章「論理と言語の哲学」）北樹出版、二〇〇二．
3. 『分析哲学の誕生』（編・共著、序論「論理思想の革命と日本におけるフレーゲ・ラッセル」、第二章「フレーゲ論理哲学的探究の全体的構成とメタ理論の可能性」）勁草書房、二〇〇八．

4. 『大出晁哲学論文集―論理学・数学基礎論・科学哲学』（編・解題）、慶應義塾大学出版会、近刊.

共著

1. 『西洋精神の源流と展開』（共著、第八章「バートランド・ラッセルの倫理思想」）ペディラヴィウム会、みすず書房、一九七五.
2. 『ことばと情報』（共著『日本語と文化・社会五』、第一章「論理学から自然言語へ―モンタギュー文法を中心に」）三省堂、一九七七.
3. 『古典解釈と人間理解』（共著、四―一章「カント『純粋理性批判』と現代哲学の一視角」）山本書店、一九八六.
4. 『カント哲学の現代性』（共著、講座『ドイツ観念論』二、第一章「カント哲学の現代性」）弘文堂、一九九〇.
5. 『ゲームと計算』（共著、講座『現代哲学の冒険九』、第二章「名指しと信念」）岩波書店、一九九一.
6. 『ヨーロッパ精神とドイツ』（共著、「意味と信念序説」）郁文堂、一九九二.
7. 『分析哲学とプラグマティズム』（共著、講座『現代思想』七、第五章「意味と真理の探求」）岩波書店、一九九四.
8. 『カント』（共著、三―一「カントとフレーゲ」）情況出版、一九九四.
9. *Logik und Mathematik*（共著、"Frege on Truth and Meaning"）de Gruyter, Berlin, 1995.
10. 『科学／技術と言語』（共著、講座『科学／技術と人間十』、第四章「言語・論理・数学と世界記述」）

岩波書店、一九九九.

11. 『現代の哲学』(共著、第一章「フレーゲ、初期フッサールそしてその後」) 昭和堂、二〇〇五.

12. 『ゲーデルと二十世紀の論理学2—完全性定理とモデル理論』(共著、第Ⅲ部「論理的意味論の源流、モデル理論の誕生、そしてその展開—論理と言語の間で」) 東大出版会、二〇〇六.

13. 『意味とコンテクスト』(共著、『現代の意味論講座』第六巻、第六章「論理学的意味論とコンテクスト」)、ひつじ書房、近刊.

主要訳書

1. S・ケルナー『カント』(単独訳、みすず書房) 一九七七.
2. A・ケニー『ウィトゲンシュタイン』(単独訳、法政大学出版局) 一九八二.
3. D・デイヴィドソン『真理と解釈』(編・共訳+解説、勁草書房) 一九九一.
4. アンスコム・ギーチ『哲学の三人—アリストテレス・トマス・フレーゲ』(共訳+解説、勁草書房) 一九九二.
5. H・パトナム『理性・真理・歴史』(共訳+解説、法政大学出版局) 一九九四.
6. M・ダメット『分析哲学の起源』(共訳+解説、勁草書房) 一九九八.
7. 『フレーゲ著作集』全六巻 (編・共訳+解説、勁草書房) 一九九九—二〇〇二 (二〇〇二年度日本翻訳出版文化賞受賞)
8. A・ケニー『フレーゲの哲学』(法政大学出版局、共訳+解説) 二〇〇一.
9. H・パトナム『心・身体・世界』(法政大学出版局、監訳) 二〇〇五. 等

主要論文

A・主要欧文単著論文

1. K.Nomoto, "Gottlob Frege's Semantics & Ontology", *Formal Approaches to Natural Language-Proceedings of the 2nd Colloquium on Montague Grammar & related Topics*—, 1982, Tokyo.
2. K.Nomoto, "Frege on Indexicals" (originally in *The Abstracts of the XVII World Congress of Philosophy* held at Montreal, Canada, 1983. 8. 22), *The Annals of the Japan Association for Philosophy of Science [AJAPS]*, vol.6, n.5, 1985.
3. K.Nomoto, "On Some semantico-philosophical Problems concerning Modal Logic", *Bulletin of the College of General Education*, 16, Ibaraki University, 1985.
4. K.Nomoto, "Ueber den Zusammenhang zwischen Gedanken, Erkenntniswert und *Oratio Obloqua* bei G. Frege", *AJAPS*, vol.7, n.5, 1990.
5. K.Nomoto, "Kritische Bemerkungen zur Theorie Freges über 'token reflexive' Ausdrücke" (Vortrag gehalten im philosophischen Kolloquium am 3. 10. 1980 des Philosophischen Seminars an der Universität Göttingen), *Philosophy* 26, The Philosophical Association of Hokkaido University, 1990.
6. K.Nomoto, "Glaubenssätze und direkter Bezug" (Vortrag gehalten im philsophschen Kolloquium, Universität Konstanz am 30. 6. 1992), *AJAPS*, vol.8, n.3, 1993.
7. K.Nomoto, "Davidson's Theory of Meaning and Fregean Context-Principle", *From the Logical Point of View*, 93-1, Prague, 1993.

8. K.Nomoto, "The Semantics of Belief Sentences" (Oxford Fellows Meeting, Feb. 5. 1992; The Prague Conference in Honor of G.Frege in Prague, Aug. 25. 1992), *The Journal of Social Sciences & Humanities*, Tokyo Metropolitan University, n.256, 1995.
9. K.Nomoto, "Frege on Truth and Meaning" (Frege-Kolloquium in Jena, 1993. 10. 8), in *Logik und Mathematik* (Frege-Kolloquium Jena 1993), hrsg. von Max, I. & Stelzner, W., de Gruyter, Berlin, 1995.
10. K.Nomoto, "A Semantic Proposal for Solving Puzzles about Belief", *The Abstracts of the 10th International Congress of Logic, Methodology and philosophy of Science*, Florence, 1995.
11. K.Nomoto, "Why, in 1902, wasn't Frege prepared to accept Hume's Principle as the Primitive Law for his Logicist Program?", (*The Abstrats of The 11th International Congress of Logic, Methodology and Philosophy of Science*, Cracow, 1999), *AJAPS*, vol.9, n.5, 2000.
12. K.Nomoto, 'G. Frege, Early Husserl, and Thereafter,' rep. in *Contemporary Philosophy-In View of the History over 2600 Years*, Kyoto, 2005.
13. K.Nomoto, "The Methodology and Structure of Gottlob Frege's Logico-philosophical Investigation", *AJAPS*, vol.14, n.2, 2006.

B・主要和文単著論文抄（学会特別報告論文、シンポジウム提題、査読論文、特集招待寄稿等）

1. 「科学的認識をめぐる合理論と経験論の対立と交錯――その現代理論哲学における意味」、『哲学研究』五〇九号、京都哲学会、一九六八.
2. 「歴史的説明の論理」（関西哲学会報告）『茨城大学教養部紀要』一、一九六九.

3. 「B.Russell の記述理論形成の過程」、『哲学研究』五二四号、一九七二.
4. 「フレーゲの意味論」、『科学哲学』六、日本科学哲学会、一九七四.
5. 「G・フレーゲの存在論」(日本哲学会報告　一九七三、五.)、『思想』五九六号、岩波書店、一九七四.
6. 「フレーゲ言語の再構成と可能世界モデル」、『哲学』二六、日本哲学会、一九七六.
7. 「様相論理のモデル理論と存在および同一性の問題」、『科学哲学』九、一九七六.
8. 「様相論理のモデル論と哲学的諸問題」(科学哲学会シンポジウム「様相論理学」提題、福井大学、一九七五)『理想』五二四号、一九七七.
9. 「モデル論と世界像」、『理想』五二七号、一九七七.
10. 「可能世界意味論と形而上学」(日本哲学会「特別報告」国学院大学、一九八一)、『哲学』三一号、一九八一.
11. 「直示性・指標性・社会性」、『理想』五〇九号、一九八二.
12. 「個・種と場—プラトン・アリストテレスの世界記述をめぐって」、『ペディラヴィウム』一六—一七、一九八三.
13. 「フレーゲにおける論理哲学の形成」、『哲学研究』五四八号、一九八五.
14. 「現代意味論における『論考』の位置」、『現代思想』(臨時増刊・特集「ウィトゲンシュタイン」)、一九八五、一二.
15. 「言語理解とは何か」(科学哲学会シンポジウム「言語理解」提題、一九八五)、『科学哲学』一九、一九八六.

16. 「言語哲学の諸相」、『言語』（特集「現代の言語論」）、一九八七.
17. 「フレーゲ・ルネッサンス――フレーゲ意味論の射程」、『理想』（「フレーゲ・ルネッサンス特集」）夏号（フレーゲ・コロキウム提題、一九八七）、一九八八.
18. 「《私》の同一性への意味論的アプローチ」、『科学哲学』二一、一九八八.
19. 「信念文のパズル」、『現代思想』（特集「愛と信の論理」）、一九八九.
20. 「可能世界とモデル」、季刊『哲学』（特集「可能世界」）、一九八九.
21. 「言語と哲学―言語的転回の射程」、『哲学』四四号（日本哲学会シンポジウム提題、三重大学、一九九四、五.）、一九九四.
22. 「フレーゲの論理と数学の哲学――『算術の基本法則』における」、『人文学報』（東京都立大学）二九五号、一九九九.
23. 「抽象的存在とパラドクス―フレーゲの場合」、『科学研究費補助金［基盤研究C［研究課題番号一〇六一〇〇一一］］研究成果報告書』、二〇〇一.
24. 「フレーゲ、初期フッサールそしてその後」（フッサール『論理学研究』刊行一〇〇周年シンポジウム提題、二〇〇〇、東京大学）、『現象学年報』一七、日本現象学会編、二〇〇一.
25. 「G・フレーゲの生涯、ならびに論理哲学探究の構成と方法」（「特別寄稿」：招待講演、二〇〇三）、北海道大学哲学会『哲学』四〇号、二〇〇四.
26. 「ことばと信念序説」、『科学研究費補助金基盤研究(B)［課題番号一三四一〇〇〇二］研究成果報告書』、二〇〇五.
27. 「綜合性とアプリオリ性再考」（シンポジウム「カント批判哲学の今日的射程」提題、二〇〇四　京

都大学)、日本カント研究六『批判哲学の今日的射程』(日本カント協会編) 理想社、二〇〇五.

28. 「フレーゲ論理哲学的探究の認識論的位相とメタ理論の可能性」(フレーゲ・シンポジウム:司会提題 (二〇〇四 京都大学))、『科学哲学』三八―二 (特集:フレーゲの現代性)、二〇〇五.

29. 「R.Dedekind の数論(1)「無理数論」 ―論理主義の一出発点」、創価大学『人文論集』、二〇一〇.

事典類寄稿抄

一九八九 『コンサイス二〇世紀思想事典』(「可能世界」「記述理論」「内包論理学」「モンタギュー文法」「様相論理学」等)、三省堂.

一九九七 『カント事典』(「分析性」「真理」「フレーゲ」「パトナム」等)、弘文堂.

一九九八 岩波『哲学・思想事典』(「真理」「事実」等一五項目)、岩波書店.

二〇〇二 『記号学大事典』(「フレーゲ」「指示」等)、柏書房.

認知科学学会編『認知科学事典』共立出版.

二〇〇七 岩波『数学辞典』第四版 (「フレーゲ」)、岩波書店.

二〇〇九 言語処理学会編『言語処理学事典』(「言語哲学」等)、共立出版.

(主要な学会活動)

* International Congress for Logic, Methodology & Philosophy of Science (LMPS) (理事 Assessor: 一九九五―九九)

* *From the Logical point of View* 誌 (Prague) (編集委員 一九九三―九五)

＊京都賞（哲学・思想分野）候補者推薦委員（一九九三―六）
＊Rolf Schock賞（論理学・数学基礎論分野のノーベル賞に相当）候補者推薦委員（スウェーデン王立アカデミー）（二〇〇七―八）
＊日本科学哲学会（会長　二〇〇〇―二〇〇五、理事　一九八八―、編集委員長　一九九七―二〇〇〇、石本基金運営委員長　二〇〇五―）
＊科学基礎論学会（理事　一九九三―、評議員　一九九〇―、編集委員　一九九三―）
＊日本哲学会（委員　一九九六―二〇〇七）
＊東京都立大学哲学会（会長　二〇〇一―二〇〇六）
＊創価大学文学部人文学会（会長　二〇〇九）
＊関西哲学会、京都哲学会、哲学会（東大）、北海道大学哲学会、日本カント協会、ライプニッツ学会等各会員。

（社会的活動等）
＊文部省科学研究費専門審査委員（一九八五―八七）
＊　同　大学設置審議会専門委員（哲学・倫理学　一九九六―二〇〇一）
＊日本学術振興会外国人招聘研究員選考委員（一九九四―五）
＊　同　特別研究員選考委員（一九九五―九六）
＊　同　科学研究費委員会専門委員（第二段）（二〇〇〇―二〇〇一）
＊M.Dummett（Oxford大学名誉教授）学振外国人招聘研究員受入（都立大学　一九九三）
＊D.Kaplan（ＵＣＬＡ教授）学振外国人招聘研究員受入（都立大学　二〇〇〇）等